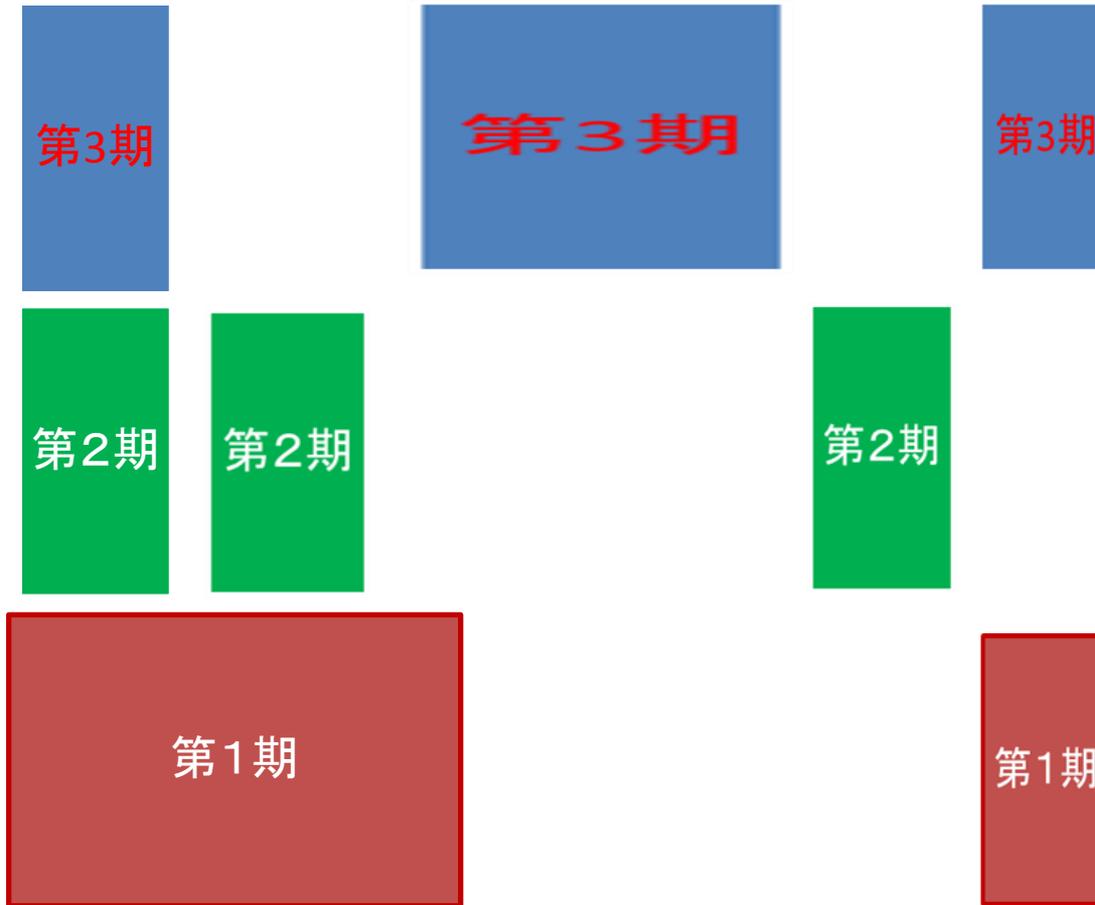


平成25年度 実践研究フォーラム  
「校長の専門職基準」再検討の方向性を問う  
～フォーラム趣旨説明

2013年6月9日（日）於：筑波大学  
第Ⅲ期実践推進委員長  
元兼正浩（九州大学）

# 第Ⅲ期実践推進委員会メンバー



# 第Ⅲ期実践推進委員会のミッションは？ (ブレイン・ストーミング)



# 第Ⅱ期実践推進委員会 (2009年6月～2012年6月)



# 科研調査(2010年5月～2013年3月 牛渡PS科研共同研究チーム)



# 第Ⅱ期の実践フォーラム



# 第Ⅱ期の成果と課題



# 第Ⅱ期から第Ⅳ期実践推進委員会の 引き継ぎ事項

免許・資格認証の検討

基準・解説書の修正

校長会等との関係構築

## 第Ⅲ期のスタンス（継承と革新）

- 校長の専門職基準そのものは第Ⅰ期の委員会が作成し(2009年版)、第Ⅱ期は実態調査や解説書作成などその「普及」活動に力を注いだ。そのため基本的な理念や構成には手をつけず、基準の微修正にとどめている（2012年一部修正版）。
- したがって、第Ⅲ期委員会のスタンスとして、**そもそもの基準、そのものによって立つ原理や構成をどう考えるか**ということが当面の焦点になると考えている（プログラム趣旨より）。

# あらゆる児童生徒のための教育活動の質的改善

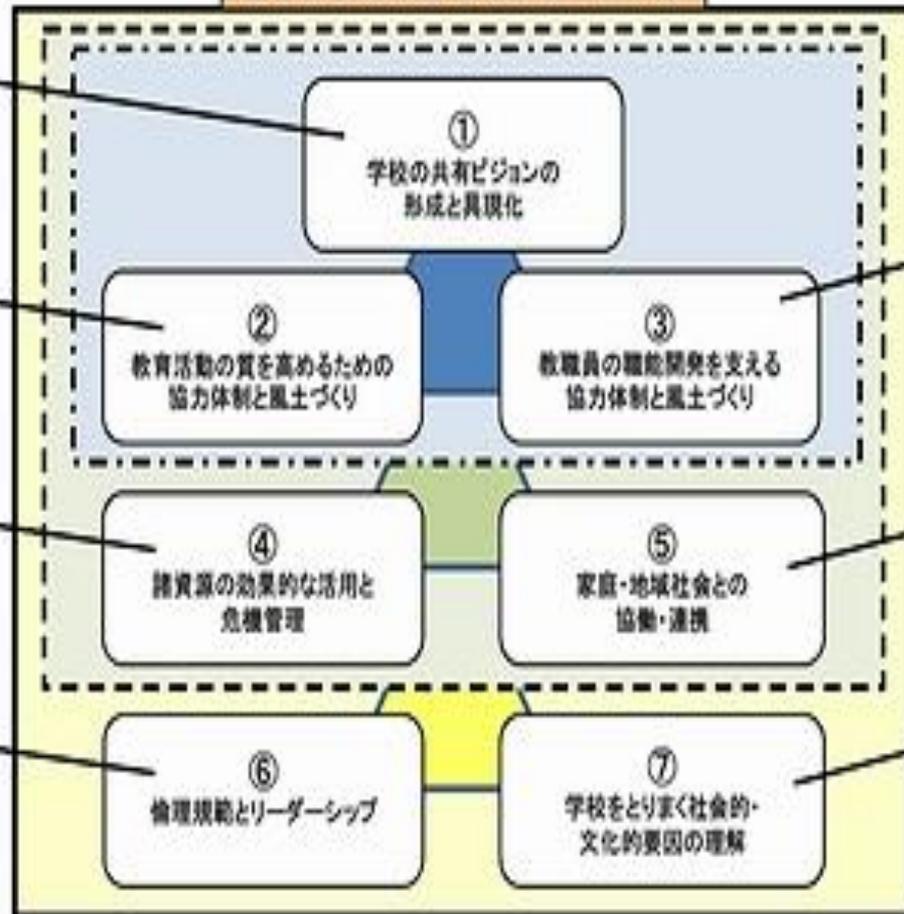
## 教育活動の組織化をリードする

- 1) 情報の収集と現状の把握
- 2) 校長としての学校のビジョン形成
- 3) 関係者を巻き込んだ共有ビジョン形成
- 4) 共有ビジョンの実現
- 5) 共有ビジョンの検証と見直し

- 1) 児童生徒の成長・発達への責任
- 2) ビジョンを具現化するカリキュラム開発
- 3) 児童生徒の学習意欲を高める環境
- 4) 教職員の意欲向上にもとづく教育実践
- 5) 教職員が能力向上に取り組む風土

- 1) 教育活動の質的向上を図る実態把握
- 2) ビジョン実現に必要な資源把握と調達
- 3) PDCAサイクルに基づく活動のリード
- 4) 危機管理体制のための諸活動リード

- 1) 学校の最高責任者としての職業倫理
- 2) 説得力をもった明確な意思の伝達
- 3) 多様性の尊重
- 4) 自己省察と職能成長
- 5) 法令遵守



- 1) 教職員の職能成長の重要性自覚
- 2) 各教職員の理解と支援
- 3) ビジョン実現のための教職員のリード
- 4) 相互交流と省察を促す集団形成
- 5) 教職員間の風土醸成

- 1) 協働・連携の必要性の理解
- 2) 環境の把握と理解
- 3) 学校に対する関心・期待の把握
- 4) ビジョン・実態の発信と協働・連携
- 5) 多様な人々・機関との適切な関係作り

- 1) 国内外の社会・経済・文化的動向を踏まえた学校教育
- 2) 憲法・教育基本法に基づく学校教育
- 3) 地方自治体の社会・経済・政治・文化的状況の理解
- 4) 教育思想についての深い理解

# 校長の専門職基準をめぐる意見

- ・校長の専門職基準であるからにはすべての主語を「校長は～」に統一すべきではないか？
- ・副校長、教頭、主幹教諭の...、と各職位に応じた専門職基準を今後策定していくつもりなのか？
- ・新しい職の配置状況は自治体によって大きく異なるので地域性をもっと考慮すべきではないか？
- ・校種や国公私立の別も検討すべきだ
- ・各基準の下位項目の設定の仕方に脈絡がない。

# 大きな検討課題

- ・ 7基準33項目という枠組み（フレーム）自体の根本的見直し
- ・ 「教育活動の組織化をリードする」という校長職の性格付けの問題
- ・ 「校長」の「専門職基準」を「スクールリーダー」の「プロフェッショナル・スタンダード」としてリニューアル可能かどうか

# 本大会プログラムより 趣旨説明

- 昨年6月に第Ⅲ期実践推進委員会が発足した。我々のミッションは校長の専門職基準の検討に留まらず、**教育経営の最前線（学校現場、教育行政機関）との対話や理論・研究と実践の関係整理など、広く学会の「実践」的な活動を推進していくことにある**と自覚しているが、まずは**専門職基準をめぐる現状と課題を把握・整理し、今後我々がどのような方向で検討していくべきか**について会員の意見を聴取する機会を頂戴したく本フォーラムを企画した。

# フォーラムの名称について

## ～実践研究の重要性と困難性

- 実践推進委員会 ⇔ 研究推進委員会
- 実践研究賞
- 実践フォーラム・実践推進フォーラム
  - 実践研究フォーラム（大会開催）...「概念」
- そもそも「実践研究」とは何か、実践研究における実践者、そして研究者の立ち位置はどこにあるのか、またはどこに身と視点をおくべきかはアポリアです。実践研究賞が研究者の実践的活動に寄っていることは、実践者が自ら行う経営実践をメタ研究することの困難さの例証でもあります。したがって、学会として研究者の実践への理解を促すとともに、実践者の研究的思考と志向を支え、実践研究者を育てていく仕掛けをつくっていく...（紀要55号、174頁）。

## 登壇者の紹介

- 第Ⅱ期実践推進委員長でありかつ第Ⅰ期からの委員でもある牛渡淳会長には「専門職基準」の検討にあたっての**期待**を国内外の政策的な状況も踏まえながらご提案いただきたい。実践推進委員会幹事会（九州大学研究室関係者）からは現行基準及び解説書の**具体的な課題**の提示を、そして第Ⅲ期の曾余田浩史副委員長からは外部環境の変化を視野にこれからの検討の**方向性**をご提案いただく。忌憚のない議論を期待したい。

# 本日のタイムスケジュール

司会 浅野良一（兵庫教育大学／実践推進委員）

- 10:55～11:00
- 本フォーラムの趣旨説明 元兼正浩（九州大学／第Ⅲ期実践推進委員会委員長）
- 11:00～11:10
- 専門職基準の見直しにあたって期待すること 牛渡淳（仙台白百合女子大学／会長）
- 11:10～11:55
- 現行専門職基準の検討課題について（担当：実践推進委員会幹事会）
- 基準1 日高和美（九州共立大学／実践推進委員会幹事長）
- 基準2 大竹晋吾（福岡教育大学）
- 基準3 元兼正浩（九州大学）
- 基準4 金子研太（九州大学大学院生／日本学術振興会特別研究員）
- 基準5 梶原健二（九州女子短期大学／九州大学大学院生）
- 基準6 畑中大路（九州大学大学院生／日本学術振興会特別研究員）
- 基準7 波多江俊介（九州大学大学院生）
- 11:55～12:10
- 今後の検討の方向性について 曾余田浩史（広島大学／実践推進委員会副委員長）
- 12:10～12:40
- フロアーからの意見聴取、質疑応答